

第6回 高知港海岸景観・利便性等検討会

議 事 概 要

I. 開催概要

日 時 : 令和2年2月21日(金) 10:00~12:00

場 所 : 高知城ホール 大会議室

出席者 : 以下のとおり

【委 員】

磯部 雅彦 (高知工科大学 学長)

重山 陽一郎 (高知工科大学 システム工学群 建築・都市デザイン専攻 教授)

原 忠 (高知大学 教育研究部 自然科学系 理工学部門 教授)

大倉 美知子 (カラーオフィス PERSONAL 代表)

【関 係 者】

齋藤 輝彦 (高知県 土木部 港湾振興監)(代理出席)

松村 和明 (高知市 防災対策部 部長)

林 日出夫 (高知市 都市建設部 部長)

森田 洋介 (高知市 商工観光部 部長)

権藤 宗高 (国土交通省 四国地方整備局 港湾空港部長)

大西 秀樹 (国土交通省 四国地方整備局 高松港湾空港技術調査事務所 所長)

Ⅱ. 議事概要

○「施設のデザイン及び配置検討」に関する意見

検討会における主な助言、意見は以下のとおり。(主に資料-3に関連)

1. 壁面について、隣接する津波防波堤との繋がりを考えれば、はつり仕上げと打ち放しでの仕上げが合理的であると考えられる。
2. どちらの仕上げも経年変化により見栄えが悪くなることは避けられないが、その中でどちらの仕上げが劣化の影響が少ないか、コスト面も考慮しつつ検討を行う必要がある。
3. 手摺りは、各設置場所に合わせた形状をアルミで作ることが非常に難しいため、詳細設計時には製作の容易な形状を検討する必要がある。製作が難しい場合は、鋼製の選択肢もある。アルミは耐久性が高いため、上手にデザインできればそれが最適である。
4. サインはポールと盤面の裏側の色についても合わせて検討する必要がある。また、注意標識と避難標識は景観を考慮した配置検討と合わせ、セットで設置することが必要と考えられる。
5. 照明について、都市公園の照度基準を干松公園に適用すると照度が高すぎるため、今回提案された設置基数が妥当である。
6. 最近の擬木・擬石等は、精度が高く、耐久性の面ではメリットがあるのでため、天然木の代わりに使う選択肢はあると考えている。しかし、県産材の活用という観点で、ベンチの座面に使うなど、詳細設計で検討頂きたい。
7. 壁式堤防上をバイク等で通行される恐れがあることからバイク用の車止めが必要だと考えられる。ただし車いすは通れるものである必要がある
8. 堤体高さが上がることにより安心感を与える恐れがあるため、壁式堤防の天端や築山が避難のゴールでないことを明示し、高知市と連携して最終避難場所までの避難動線を議論頂きたい。また、液化化マッピングの不確実性、ブロック塀や家屋倒壊等を踏まえた動線確保について、ソフト面も含めて高知市と連携して検討頂きたい。
9. 固化改良体への遮水性を確保することが重要であり、植生の影響も踏まえて、雨水排水と固化改良体の保全を両輪で、慎重に検討頂きたい。
10. 壁面の明度を高くすると圧迫感は軽減される。はつり仕上げでコンクリートの経年変化の速度変化について確認が必要。また、階段の隅に砂が溜まる事例もあるため、自浄作用を考慮し、直線ではなくアールをつける等の対策をして頂きたい。
11. 塗装を考えるのではなく、自然素材の色彩が今回の計画にはマッチすると考えられる。
12. 蓄光素材を活用するなど、段差や境目に明度差をつけることで、高齢者の安全性・利便性を高めるこ

とが必要である。

13. 高知の風土には、土佐瓦の明るさを共通認識で持って頂くと、自然条件の中で長く愛され、受け入れられるものになるのではないかと考えられる。素材は、桂浜側からの観光客の視点もあるので、マットで反射しないものがよいと考える。

○「結節部における安全性について」に関する意見

検討会における主な助言、意見は以下のとおり。(主に資料-4に関連)

1. 重力堤の案では、下部の液状化による沈下や変形がないということが前提であることから、地中構造についても留意頂きたい。
2. オメガジョイントを設置することについては、埋込んでしまうため目視確認や老朽部の確認が難しくなると予測される。経年劣化や耐久性が永続的に許容値を継続できるか、素材・実績を含め検討頂きたい。

○「隣接施設の親水性検討」に関する意見

検討会における主な助言、意見は以下のとおり。(主に資料-5に関連)

1. 津波防波堤は、インフラツーリズムの舞台として、皆が喜ぶような施設になる事が望まれる。
2. 普段は見られないような流れの様子を見ることができるだけでなく、防波堤の構造を見ることが出来る珍しい施設となる。
3. 目の前を船が通る景色は、高知ではなかなか見られない。

以上